HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	退職前を振り返って
Author(s)	斎藤, 博幸
Citation	北海道大学農学部技術部研究・技術報告, 7, 35-36
Issue Date	2000-03
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/35396
Type	bulletin (other)
File Information	7_p35-36.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

退職前を振り返って

農学部付属牧場　　斎藤博幸

昭和 33 年 11 月 1 日より北海道大学農学部付属牧場（当時、北海道大学農学部付属日高実験農場）へ勤め始めて 5 ヶ月間程昼は勤務し、夜は夜間高校へ通い、卒業その後は牧場の作業に専念しました。その頃、牧場の土地の面積は 435ha で、その内、畑・軽種放牧地などで 15ha 程で残り 420ha が林間放牧地だったと思います。その後 35ha 増えまして全面積 470ha と成りました。その当時、馬が 80 頭余りで軽種馬・乗馬がそれぞれ 5～6 頭で残りが和種馬で、春・夏・秋は当場の林間放牧地に放牧、冬期間は笹などが少ないため町有林を借りて放牧しました。一週間に 1～2 回見回りに行くのですが、冬期間の見回りは寒さなどで大変でした、先輩の話では、ある年には雪が余りに多く見回り不能になりショベル（スコップ）などをもって馬を下げに行ったそうです。又夏には台風の多い年には風倒木が多くなりそこへ追いこまれ一夜にして十数頭も熊に襲われたそうです。

和種馬などの利用として系統保存の他に昭和 46 年頃より受精卵移植の研究が開始され、48 年には受精した卵を取り出し、他の馬の腹に入れることに世界で始めて成功しました。さらに研究が続けられ、研究者は変わりましたが引き続き凍結受精卵の移植の研究が開始され始めは失敗を重ねていましたが昭和 52 年頃には成功しました。このような成功の陰には技官の微量ながらの補助があったからだとも思っております。平成に入ってからは行動学の調査、馬の肥育試験、消化管の微生物試験、窒素代謝試験、他大学との共同研究と色々な試験研究に活用されています。

又昭和 40 年頃より肉牛も導入されると同時に放牧血の造成も進められ、蹄耕法（山の木を切り材を出し枝を片付けて放牧し牧草の種を蒔く牛が踏み付ける事によって種が土中に入り芽が出る）による放牧地造成も進められました。これが数年続けられて放牧地が出来牛の数も増え、これによって肥育試験、肉質試験、牛の行動調査も行われた。この他に共同研究所で、育成牛の代謝性成長試験も進められています。また土壌学教室との共同研究では水質、水量など色々と調査されています。

40 年余り勤めますと、まだまだ思いでが有りすぎて・・・。退職まで勤めることが出来たのは諸先輩、各教官,事務官を始めとしてとくに牧場技官の皆さんの協力が有ったからだと、感謝しております。又農学部技術部技官の皆さん技術部役員の

方々にもお世話に成りました。大勢の皆様方に心より御礼申し上げます。独立法人など諸問題が有りますので大変だと思われますが、体に気を付けて御活躍され御発展される事をお祈り申し上げて、御礼の言葉にしたいと思います。有り難う御座いました。